

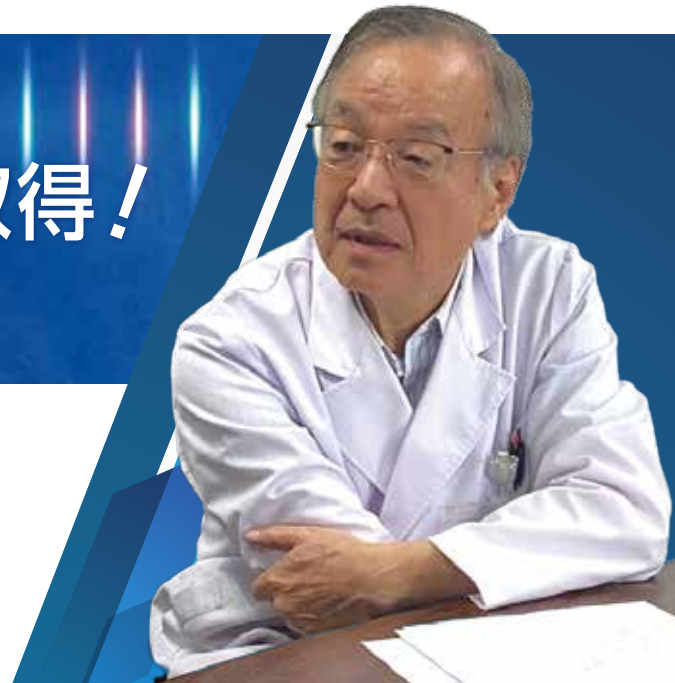
- <特集レポート①> Journal Impact Factorの取得にあたって
- <特集レポート②> 2019～2023年の国内論文投稿数の推移
- <杏林舎サービス紹介> 杏林舎カレンダー販売

JMA Journalが ジャーナル・インパクトファクター1.5を取得！

編集長インタビュー

公益社団法人 日本医師会、日本医学会 / [英文誌] JMA Journal, Editor in Chief

社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院 常務理事 福井 次矢先生



編集長は自身の経験を活かす

2024年6月、日本医師会様発行の英文誌「JMA Journal」が、ジャーナル・インパクトファクター（JIF）を取得されました。おめでとうございます。その記念にということで、本日は創刊からいまに至るまで、そしてこれからのお話を、編集長を務められます福井次矢先生に伺います。まずは、創刊に至った経緯を、いろいろとご苦労いただいてここまで来ていると思いますので、そういったことを含めて振り返っていただければと思います。

日本医師会様は、JMA Journalの前に「JMA」という英文誌を発行されておりましたが、新たにJMA Journalを創刊した経緯や目的を、最初にお聞かせいただけますか。

福井 私自身としては、アメリカで一般内科の診療の傍ら勉強もして公衆衛生で学位を取ったこともあり、公衆衛生と一般内科の分野での知合いがアメリカに多くいます。その中である先生から2017年の春ごろに連絡があり、アメリ

カ医師会が発行する「JAMA Network Open」という雑誌の創刊の編集委員会メンバーになることになりました。立ち上げのための編集委員会ののち数回の会議を経て2018年にJAMA Network Openが創刊されました。

論文をオープンアクセスにしていたので、ものすごく忙しい編集委員会だったのですが、2020年になって早くもJIFがつきました。最初から5.032と非常に高いものでした。

また、JAMA Network Openには世界中から論文がどんどん投稿されてきます。当初からテーマや分野を絞りすぎない感じの方針で、オンラインかつオープンなイメージで運営してきました。

私にはそういう経験がありましたので、日本でもJAMA Network Openに匹敵するような、いろいろなテーマのもの、そして海外に向かって発信できるようなものを新しくつくりたいと、ずっと思っていました。

JMA Journalはゴールド・オープンアクセスにこだわりたい

福井 日本からも、オンラインで、ワールドワイドな雑誌を、なんとか出したいと強く思いました。

まず頭に浮かんだのが、掲載料についてでした。日本では、きちんとしたジャーナルの掲載にはお金がかかるのは当然という考えもある一方で、それがかなりのハードルになっているのも事実でした。考えまして、しばらく掲載料をゼロでできないかという話を周囲にしました。無料だとしても、どのくらい時間がかかるかはわからないけれど、必ず日本からきちんとした論文が出せるジャーナルになる、というところはいまも確信しています。

JMA Journalのひとつの「売り」は、「掲載料ゼロ」すなわちゴールド・オープンアクセスなのです。通常、研究者は研究

が終わったあとに論文を書くわけですが、研究費は研究に費やしているため論文掲載の費用は残っていないことが多いのです。その状態で投稿する場合、所属機関が捻出してくれればいいのだけれどもなかなかそうもいかず、結局自らのポケットマネーでということもあります。現実として、掲載料ゼロについては皆さん「本当にありがたい」と言ってくれています。今後ともぜひその方向を維持できるように願っています。

それで、JIF取得には6、7年かかったのですよね。

そうですね。創刊が2018年9月なので、ちょうど6年です。

福井 今回JIFがついて、その点でも投稿する人にとって、新たなメリットが加わりました。いままで以上にうまく宣伝をすれば投稿数は絶対に増えていくと思うのです。

そういう状況も踏まえて、日本医師会には掲載料ゼロをできるだけ長い期間続けてほしいと伝えています。

そうですね。投稿料も掲載料も取らないゴールド・オープンアクセスというのは、ジャーナルとして貴重だと思います。

投稿数、急上昇中！

ところで、実際JIFを取ってからかなり投稿数が増えています。メールマガジンで「JIFを取得しました」というお知らせを流していますので、そういう効果もあってか、周知も進んでいるように思われます。

福井 どのくらい増えている感じですか。6月の下旬にJIFが発表されて、7月には1カ月間の過去最高投稿数で、約60編です。1日に約2編のハイペースです。2023年は年間で206投稿でしたが、2024年の今年半分でもう200以上投稿を受け付けています。年間では倍増するかもしれません。

福井 ああ、ほんとうにすごい数になってきました。やはりJIFがつくと、皆さん、より投稿しようという気持ちになりますよね。

間口が広い！ JMA Journalが投稿先に選ばれる魅力

JMA Journalの目的としても、かなり幅広い分野のOpinionを募り、非臨床研究も歓迎するというような方針を採っています。ここまで広く受け付けているというのは、日本のジャーナルだとあまりないと思います。これも選ばれる理由になってきているのではないのでしょうか。

福井 いろいろな幅広い分野を網羅して掲載するということをすると、毎回のように新しい分野が次から次へと出てくるものです。現在受け付けている分野は64分野にもなります。すごい幅の広さです。JMA Journalは初期のころから、編集長、副編集長などの先生方で分野を網羅していただきまして、かなり多くの分野を挙げていたのですが、そのあとも継続して追加になっている状況です。そうすると「あっ、自分の分野だな」ということで初めての先生にも投稿しやすいのではないかと。これは、JMA Journalの魅力のひとつだと思います。

福井 そのとおりだと思います。論文種類でみると、いちばん投稿が多いのはOriginal Research Articlesで、その次がImagesですね。投稿受付当初か

ね。ほんとうによかったです。

初めてでJIFが1.5という、日本のジャーナルとしては高いランクにあるのも、影響があるかもしれないですね。

福井 JAMA Network Openはいま10.5になっているので、JMA Journalも上がりますよ。ほんとうにそう思います。

いろいろな分野からの論文をアクセプトして、オープンアクセスで、掲載料が無料であれば、絶対にJIFは上昇していくと思います。

らImagesも割と多いけれど、オリジナルなものがいちばん多く投稿されているのでバランスが良く、いい傾向かなと思います。Review Articleが3番目。ほんとうにいろいろな分野から投稿してもらえればうれしいです。

理想的ですね。

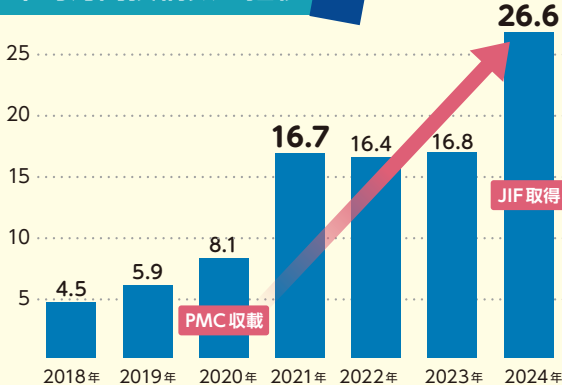
福井 あとは、宣伝・広報面などで杏林舎にはたくさん工夫をいただいていますね。

はい、どのジャーナルでも初めの周知や広報にいちばん苦労するとは、これまでの経験から理解していました。JMA JournalではSNS、Xなどを利用してみたり、ジャーナル紹介のショートビデオを作成しサイトに載せたりしています。このジャーナルは、オープンアクセスで、掲載料も無料で、幅広い分野でOpinionを受け付けていますよという、特長がすぐにわかるビデオというのは、他誌ではなかなかできないことだと思います。

福井 そうです。そのビデオはだいぶ視聴されていますね。

先生方が視聴しやすいようにジャーナルサイトのトップページにありますので、

平均月間投稿数の推移



続きはWebで

誌面の都合上、掲載しきれなかったインタビューの続き（全文）をWebにて公開しています。APCや今後の展望など、ジャーナル運営のヒントになる情報満載です！ぜひ以下より続きをお読みください。

杏林舎



<https://www.kyorin.co.jp/>

S1M NEWS 特集レポート 2019～2023年の国内論文投稿数の推移

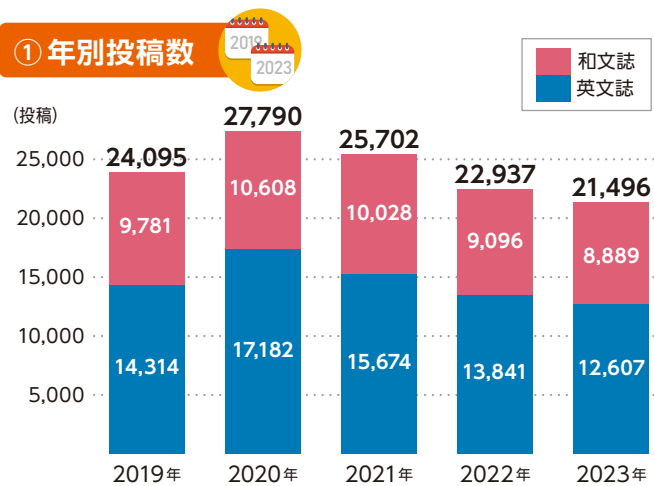
2019/1/1～2023/12/31の5年間に、ScholarOne Manuscriptsの投稿実績のある国内176誌(和文誌：109誌、英文誌：67誌)を対象としてデータを抽出しました。これらのデータを年別・月別・国別で集計しましたのでご紹介します。

①年別投稿数

2019年から2023年の5年間にわたる学術論文投稿数の推移を分析すると、全体的に減少傾向が見られます。英文誌、和文誌ともに、2020年に投稿数のピークを迎えた後、年々減少しています。

英文誌の投稿数は、2019年の14,314件から2020年には17,182件まで増加しましたが、その後は減少に転じ、2023年には12,607件となりました。同様に、和文誌も2019年の9,781件から2020年には10,608件に増加し、その後減少し、2023年には8,889件に落ち着いています。全体としては、コロナ禍のはじまった2020年の27,790

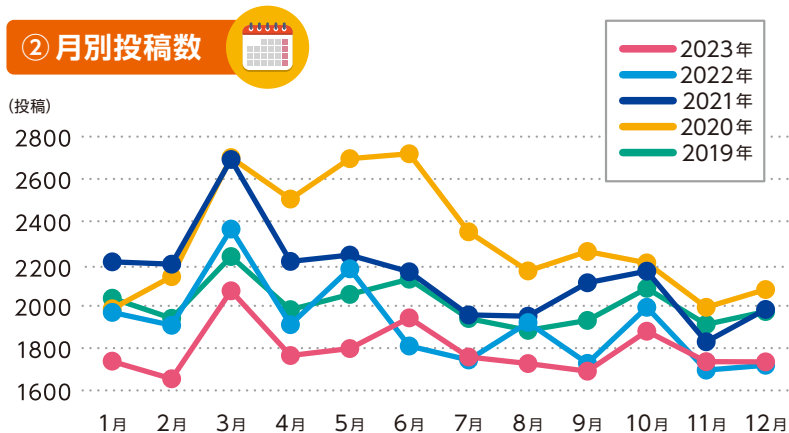
件が最大の投稿数で、その後減少が続き、2023年には21,496件まで落ち込んでいます。この傾向から、2020年の一時的な増加が特異的であり、その後は持続的な減少が見られることがわかります。しかし、この減少は、コロナが収束したということだけではなく、学術界全体における要因も影響しているように思われます。



②月別投稿数

月別投稿数は、コロナ1年目の2020年が他の年と比べてやや変則的な点もありますが、総じて通年での投稿数の第1のピークが毎年3月、第2のピークが6月、

第3のピークが10月となっています。毎年3月に投稿数のピークとなり、増減を繰り返しながら12月まで減少していく傾向にあるよ



うです。3月と12月の5年間の平均値を比較すると、3月の投稿数は12月の投稿数よりも25%ほど多くなっています。

③国別投稿数

英文誌を対象とした国別の投稿数を分析すると、各国の研究活動の変遷が鮮明に見えてきます。中国、インド、トルコ、インドネシアのように成長を続ける国々がある一方で、韓国やイラン、台湾は減少傾向を示しています。今回は、これらの国の動向について注目すべき点を挙げていきます。

まず、中国は2019年から2023年にかけて常に2位を維持しており、特に2020年には3,824件の投稿を記録しましたが、その後は減少傾向に転じ、2023年には2,885件に落ち着いています。国内の研究環境や国際的な競争の影響を反映していると考えられますが、中国は依然として高い水準を維持しています。

一方、インドは大きな成長を遂げており、2019年に5位だったインドは、2023年には3位に上昇し、投稿数も351件から531件へと増加しました。この成長は、インドの科学技術分野への積極的な投資や研究インフラの整備が寄与していると思われます。インドは今後もさらに影響力を増す可能性が高くなると考えられます。

トルコも安定して上位に位置しています。5年間で一貫して上位5位以内にランクインしており、2020年には3位の位置で543件の投稿を記録しましたが、

その後は減少し、2023年には417件にまで減少しています。国内外の情勢が影響している可能性も考えられますが、依然として高い水準を維持している点が注目されます。

インドネシアは新興国の中でも顕著な成長を見せています。2019年にトップ10にランキング入りして以降、投稿数が着実に増加し、2022年には254件、2023年には277件となりました。この成長は、インドネシアの学術研究の強化が反映されたものと思われ、今後も注目される国の一つです。

対照的に韓国、イラン、台湾は減少傾向にあります。韓国は2019年には412件で4位にランクしていたものの、その後投稿数は減少し、2023年は263件で6位となりました。イランもかつては強い存在感を示していましたが、政治的・経済的要因の影響によるものか、投稿数は減少して全体での割合としても減少しています。台湾も同様に10位以内には位置しているものの、年々投稿数が減少しています。これらの国々は研究環境や国際競争の変化にも直面しており、今後の動向が注目されます。

全体として、中国、インド、トルコ、インドネシアなどの成長国は、学術論文の投稿において存在感を増していますが、韓国、イラン、台湾のように減少傾向にある国も見られます。それぞれの国が直面している課題や今後の展開について引き続き注目していきたいと思います。

③国別投稿数

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
1位	日本 6,921 (53.2%)	日本 8,526 (54.8%)	日本 7,926 (55.3%)	日本 6,840 (53.7%)	日本 6,134 (53.3%)
2位	中国 3,308 (25.4%)	中国 3,824 (24.6%)	中国 3,579 (24.9%)	中国 3,389 (26.6%)	中国 2,885 (25.1%)
3位	トルコ 450 (3.5%)	トルコ 543 (3.5%)	トルコ 483 (3.4%)	トルコ 473 (3.7%)	インド 531 (4.6%)
4位	韓国 412 (3.2%)	インド 458 (2.9%)	インド 462 (3.2%)	インド 398 (3.1%)	トルコ 417 (3.6%)
5位	インド 351 (2.7%)	韓国 395 (2.5%)	韓国 319 (2.2%)	インドネシア 254 (2.0%)	インドネシア 277 (2.4%)
6位	イラン 295 (2.3%)	イラン 310 (2.0%)	インドネシア 264 (1.8%)	韓国 244 (1.9%)	韓国 263 (2.3%)
7位	台湾 220 (1.7%)	インドネシア 236 (1.5%)	イラン 262 (1.8%)	イラン 242 (1.9%)	イラン 182 (1.6%)
8位	インドネシア 212 (1.6%)	台湾 220 (1.4%)	アメリカ 194 (1.4%)	アメリカ 167 (1.3%)	アメリカ 130 (1.1%)
9位	アメリカ 172 (1.3%)	アメリカ 189 (1.2%)	台湾 182 (1.3%)	台湾 143 (1.1%)	台湾 128 (1.1%)
10位	タイ 150 (1.2%)	サウジアラビア 168 (1.1%)	タイ 153 (1.1%)	パキスタン 141 (1.1%)	タイ 115 (1.0%)

編集後記

今回は、日本医師会様の英文誌「JMA Journal」が念願のジャーナル・インパクトファクター(JIF)を取得されたニュースをお届けしました。創刊から6年を経て、掲載料無料のゴールド・オープンアクセス方針や多分野にわたる論文の受け入れにより、現編集長の福井次矢先生のもとで投稿数と認知度が大幅に向上しました。日本発の国際的な医学ジャーナルとして、今後のさらなるご発展を楽しみにしております。福井先生、お忙しい中、インタビューにお応えいただきましてありがとうございました。

また、2019～2023年の国内論文投稿動向についてご紹介しました。コロナ禍でピークを迎えた2020年以降は投稿数が減少する一方ではありますが、中国やインド、インドネシアなど成長著しい国々が存在感を高めています。今後も各国の動向に引き続き注目していきたいと思います。

S1M NEWS

2024年11月15日発行 第27号

発行

株式会社 杏林舎
〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10
Tel.03-3910-4311 Fax.03-3949-0230
https://www.kyorin.co.jp/

編集・制作・デザイン

株式会社 杏林舎
s1-support@kyorin.co.jp

E-mail

● B6サイズ

● 卓上カレンダー (リング式)

● メモページ付き

シンプルで使いやすいデザイン

表紙デザインは3種類

予定が書きこめるカレンダー

11月中旬 KaLib Store にて発売!!

学術に関わるオンラインストア

使いやすいと大好評の杏林舎オリジナルカレンダーです!

https://store.kalib.jp/